

この夏はコロナの上に熱中症や豪雨で大変な日々でしたが、秋になり台風の季節を迎えました。台風は、熱帯の海に溜まった熱エネルギーを温帯地方に循環させ地球環境のバランスをとる絶妙なシステムでしたが、最近では、海水の温度が海面下 100mぐらいまで高くなっていて、台風の風でかき回しても熱が下がらないどころか、さらに上昇してスーパー台風に急成長するのだそうです。このことは、1992年にアル・ゴアさんが書いた「地球の掟」でも2006年に出版された「不都合な真実」でも言われています。その後も、確実に地球の温暖化は進んで、豪雨と風速 80～90mと言うスーパー台風の時代に突入したのです。

地球温暖化は、大気中へのCO₂の放出が原因と言われてきました。海水に接する大気の熱が海水に吸収され、大気の温暖化をこれまでは抑えてきましたが、今では大気の熱を吸収することが出来なくなって海水の温度も上昇に転じているようです。日本と中国と韓国が取り囲む東シナ海は工業排水の海洋投棄やゴミやし尿の海洋投棄が原因で海水温が上昇し台風が日本に近づけば力を増強しつつ季節風に乗ることが分かってきました。このまま行くと30年以内に海水温はさらに 0.7 度上昇すると言われていていますから、台風は秋だけでなく年中超大型スーパー台風になる可能性があります。大気中の二酸化炭素が海水に溶け込んで海水の酸性化が起こり、海の生物の生態系も崩れそうになっているそうです。

イザヤ書5:1～6に神様が愛する者の為に良いブドウ畑を用意したが、「酸っぱいぶどう」を实らせたと言われています。「ブドウを植えた」は出エジプト記 15:17 に記されているように神様がイスラエルの民を奴隷であったエジプトから開放し神様が用意した大地に移したことを意味しイスラエルの人々の生き方が問題にされています。「酸っぱい」はベウシームで「悪臭を放つ」という意味で、腐った実だと。7節に「流血」(ミスパハ)、「叫喚」(ツェアカ)とダジャレを用いて訴え、節からは「富める者の横暴」をいう小見出しで貧富の格差が問題にされています。現在の世界でも核兵器や経済力を持つ国が貧しい国を支配し、幼い子供の命まで奪っています。神様が造られた被造物の世界を人間が私利私欲の為に生態系まで破壊していることを嘆いておられるとも読めます。

地球温暖化とか海水の酸性化と言われても自分達には何もできないと思いがちですが、自分にできることをして地球という美しい大地をみんなの嗣業として次の世代の人々のためにも大事に守って行きましょう。キリスト教信仰は私達の心の平安ですが、神様の想像された世界を守ることを求めています。